町内会における
デジタルツール
活用事例集

デジタルで町内会をもっと身近に

町内会における運営上の課題解決のために、
デジタルツールを活用する団体が増えてきています。
この事例集では、市内８つの町内会のデジタル化の取り組みと
「デジタル化の始め方」や「デジタルディバイド（情報格差）対策」、
「鹿児島市による支援」を紹介しております。
町内会のデジタル化、役員の負担軽減に向けた取り組みの
参考にしていただければ幸いです。

鹿児島市 市民局 市民文化部 地域づくり推進課

もくじ

【デジタル化の取り組み】

〇ＬＩＮＥオープンチャットを活用したデジタル回覧板
事例１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．１
デジタル回覧板の導入により
班長の負担軽減と会員の満足度向上を実現
事例２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．２
市の講座をきっかけにデジタル回覧板導入
運営のデジタル化で若い人の参画を促す

〇グループＬＩＮＥを活用した役員間での情報共有
事例３・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．３
デジタル化で情報共有の効率化を実現
コミュニケーションの増加、省力化にもつながる
事例４・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．４
急を要するトラブル案件も迅速に情報共有
会議を減らし、更なる負担軽減を目指す

〇ＳＮＳ（インスタグラム）を活用した情報発信
事例５・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．５
若い世帯の声をもとに新しい情報発信を検討
より多くの人に魅力を伝えるために奮闘中

〇ホームページ（Googleサイト）を活用した情報発信
事例６・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．６
ホームページ開設により利便性向上
デジタル人財発見の一助にも

〇オンライン集金
事例７・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．７
オンライン集金により班長の負担軽減
スマホ教室で会員のデジタルリテラシー向上
事例８・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．８
コロナ禍を機にオンライン集金を導入
デジタル化が加入率のアップにも貢献

【デジタル化に取り組むにあたって】
〇デジタル化の基本的な始め方・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．９
〇デジタルディバイド（情報格差）対策・・・・・・・・・・Ｐ．１０

【鹿児島市による支援】・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．１１

【デジタル化の取り組み】

◆事例１◆
ＬＩＮＥオープンチャットを
活用したデジタル回覧板

《基本情報》
エリア：松元
世帯数：約200世帯
班　　数：3班
平均年齢：30～40歳

デジタル回覧板の導入により
班長の負担軽減と会員の満足度向上を実現

背景

- 会員は共働き世帯が多い
- 班長の大きな負担である毎月２～３回の回覧業務の軽減を図りたい

取組

- 電子回覧板の入会手引きの作成
- ＬＩＮＥオープンチャットの試行開始

工夫したポイント

◆ 紙の回覧板で電子回覧板のメリット・デメリットを説明
◆ 希望者への紙回覧板の併用実施
※回覧ルートの再編成、個別ポスティング（回覧不要）
◆ 操作が不安な会員には、班長が操作サポートを実施

結果

- 班長の業務負担が軽減
- タイムラグのない情報伝達による不公平感の解消
- 不審者情報などのリアルタイムな共有による防犯意識の向上

町内会の声

町内会行事について、直前の告知や写真・動画によるリアルタイムな情報共有ができるため、**行事への参加者が増えました。**
また、活動報告も写真付きですぐにできるので、**役員のモチベーションアップにもつながっています。**

【デジタル化の取り組み】

◆事例２◆
ＬＩＮＥオープンチャットを
活用したデジタル回覧板

《基本情報》
エリア：中央
世帯数：約750世帯
班　　数：９班
平均年齢：60歳

市の講座をきっかけにデジタル回覧板導入 運営のデジタル化で若い人の参画を促す

背景

- 地理的に急傾斜が多く、回覧板業務が負担
- 町内会の中での関係性が希薄になっていると感じていた
- 若い人の町内会への参画を通して、地域の活性化につなげたい

取組

- 市主催のデジタルツール活用支援講座を受講
- ３か月間の試験運用後に本格稼働

工夫したポイント

◆ 紙回覧板の併用実施
（オープンチャットの二次元コード付き）
◆ 夏祭りなど、様々な行事で登録会を開催

結果

- イノシシ情報など地域情報の迅速な共有
- 回覧板の情報を後で見返せる安心感
- 町内会未加入者にも地域情報の発信

町内会の声

地域には、様々な事情のある方がいるため、オープンチャットは、町内会の**会員以外も登録可能**としています。**町内会の情報に触れている状態を作ることが大切**であって、そうすることで、いつか入会、行事参加してくれると思っています。

また、今後も町内会運営のデジタル化を進めていくことで、**若い人の参画を促す**ことにもつながると考えています。

【デジタル化の取り組み】

◆事例３◆
グループＬＩＮＥを活用した役員間での情報共有

《基本情報》
エ リ ア：中央
世 帯 数：約600世帯
平均年齢：60歳
役　員　数：18人

デジタル化で情報共有の効率化を実現
コミュニケーションの増加、省力化にもつながる

背景

- 役員間で紙か電話での情報共有を行っており、効率化が課題

取組

- 目的、階層に応じた５つのグループを作成
- 役員会で操作説明会を実施

工夫したポイント

◆ スマホ操作が不安な方へ
　⇒ 役員会の場で登録をサポート
◆ スマホを持っていない方へ
　⇒ ＳＭＳ（ショートメッセージサービス）による情報共有

結果

- 瞬時の情報伝達による情報共有の効率化
- 簡単な内容は会議ではなく、LINE上で意見交換や判断が可能に
　⇒ 役員間コミュニケーションの増加と省力化

町内会の声

会議前に資料をグループLINEで共有することで、出席者は**事前に内容を把握**できます。そのおかげで、当日は**議論が活発**になり、**いい意味での雑談も増えました。**

また、役員の活動（資源物回収、掲示板作成など）をグループLINEで共有することで、お互いの活動が見えるようになり、**活動への理解が進んでいます。**

【デジタル化の取り組み】

◆事例４◆
グループＬＩＮＥを
活用した役員間での情報共有

《基本情報》
エ リ ア：中央（マンション）
世 帯 数：約100世帯
役　員　数：7名
平均年齢：60歳

急を要するトラブル案件も迅速に情報共有
会議を減らし、更なる負担軽減を目指す

背景

- 役員（理事）は、全員が在職中
- 情報共有は、毎月行う理事会での紙配布
- トラブル対応含め、スピーディーな情報共有が課題

取組

- マンション管理会社の担当者を含むグループLINEを作成
- 会議書類の共有のほか、掲示物の確認、緊急事項の共有に使用

工夫したポイント

◆ 防犯情報については、リアルタイム、写真付きで共有

結果

- スピーディーな情報共有
- 会議資料や議事録などの書類作成時間の短縮
  （１週間かかっていた情報共有がタイムラグなし）
- 情報共有の可視化（「既読」機能）による安心感

町内会の声

管理会社をグループLINEに入れたことで、情報の流れが「管理会社→理事長」から「管理会社→理事」になり、**理事全員が案件についての状況把握**ができるようになりました。

また、会議は議案によっては、LINE上で終わらせることもできます。毎月の会議を３か月に１回にして、**役員の負担を軽減**したいと思っています。

【デジタル化の取り組み】

◆事例５◆
ＳＮＳ（インスタグラム）を活用した情報発信

《基本情報》
エ リ ア：谷山
世 帯 数：約200世帯
平均年齢：40~50歳

若い世帯の声をもとに新しい情報発信を検討
より多くの人に魅力を伝えるために奮闘中

背景

- 若い世帯を中心に、回覧板は不要との声
- 町内会の発信する情報のあり方を検討
- 情報発信の手段としてＳＮＳ（インスタグラム）を検討

取組

- 複数の役員が活動報告を写真付きで発信

工夫したポイント

◆ 高齢者のことを考えて、回覧板と掲示板も併用
◆ 六月灯の写真コンテストをインスタグラムで開催

結果

- 登録者数を増やす取り組みを企画、実行

町内会の声

回覧板では掲載スペースが限られますが、インスタだと**写真付き**で行事の楽しい様子がより詳しく伝えられます。
現在、**登録者数を増やす取り組みを試行錯誤**していますが、地道にやっていくしかないと考えています。
また、インスタでの情報発信と並行して、会員が知りたい情報をいつでも見に行ける場所として、**町内会のホームページ**作成も進めています。

【デジタル化の取り組み】

◆事例６◆
ホームページ（Googleサイト）を
活用した情報発信

《基本情報》
エ　リ　ア：中央
世　帯　数：約1,300世帯
平均年齢：65歳

ホームページ開設により利便性向上
デジタル人財発見の一助にも

背景

- 若い世代の加入促進が課題
- インターネット検索への対応が必要
- 回覧板の情報共有は時間がかかる（補完するツールが必要）

取組

- 市主催のデジタルツール活用支援講座と講師派遣を活用
- ホームページ作成にあたり、協力者を地域内で募集
- 催しの開催可否判断をホームページで周知

工夫したポイント

◆ 紙の回覧板と併用、紙にホームページの二次元コードを記載
◆ ホームページ作成の協力を事業者含めて広く依頼

結果

- 公民館の予約状況を可視化したことで利便性が向上
- 地域内のデジタルに詳しい人財の発見

町内会の声

会員内でのホームページ自体の認識がまだ不足しているので、継続的に**ホームページに関する周知**を行っていく必要があると思います。特に高齢者に焦点を当てたお知らせを行っていきたいです。

今後の町内会運営を考えると、顔を会わせるなどの**アナログな部分も必要不可欠**ですが、**デジタル化をうまく取り入れていく**必要もあると思います。

【デジタル化の取り組み】

◆事例７◆
オンライン集金
（クレジットカード決済）

《基本情報》
エ リ ア：谷山
世 帯 数：約600世帯
平均年齢：65歳

オンライン集金により班長の負担軽減
スマホ教室で会員のデジタルリテラシー向上

背景

- 区域内に新しい団地ができ、３０～４０代が増加
- 共働き世帯も多く、集金時に不在、再度の訪問が必要
- 会費の徴収業務が班長の負担

取組

- 範囲を限定しテスト運用を実施

工夫したポイント

◆ 現行の戸別集金も選択可
◆ デジタルアドバイザー（会員）による班長への操作研修
◆ 年間スケジュール、Ｑ＆Ａ作成
◆ 協力者への謝金等に市の補助制度を活用

結果

- テスト運用の範囲において「９割」がオンライン集金を活用
- 戸別訪問の減少により、班長の負担が軽減

町内会の声

オンライン集金導入に向けて、**年間スケジュール、Ｑ＆Ａ**を作成したことで、会員の理解を得やすかったと思います。**テスト運用**のフィードバックも取り入れて、全体に広げていきたいと思います。

また、会員の**デジタルリテラシー向上**も必要と思い、オンライン集金とは別に、**スマホ教室**を実施しました。高齢者は、スマホを持っているが、通話だけで、ほぼ使えていない人も多く、**とても好評**でした。

【デジタル化の取り組み】

◆事例８◆
オンライン集金
（コンビニ決済）

《基本情報》
エ リ ア：谷山
世 帯 数：約200世帯
平均年齢：40歳

コロナ禍を機にオンライン集金を導入
デジタル化が加入率のアップにも貢献

背景

- 集金は班長が年２回戸別訪問
- 再訪問することもあり、会費の徴収業務が班長の負担
- コロナ禍を機に、町内会業務の見直し図った

取組

- ５月下旬に会員宅に払込票を案内文と共に郵送

工夫したポイント

◆ 戸別集金による現金払いも選択可
◆ 会員の手間を考慮し、コンビニ決済を選択
◆ 効率を重視し、払込票についても郵送

結果

- 会員の「９割」がオンライン集金を利用
- 戸別訪問の減少により、班長の負担が軽減
- 新規加入者にも、オンライン集金が好評

町内会の声

2019年当時、コロナ禍であったため、町内会業務について非接触を基本として見直しを図り、班長さんの負担であった会費徴収を**コンビニ決済**にしました。会員はもとより、**引っ越してきた方にも、とても喜ばれており**、それが**加入率アップ**にもつながっていると思います。
今後の町内会の取り組みとして、**会費のスマホ決済**と**デジタル掲示板**について検討しています。

【デジタル化に取り組むにあたって】

○デジタル化の基本的な始め方

段階	行うこと
①現状の分析	なぜデジタル化を行うのか、どんな課題があるのか、どんなツールがあるのか等
②方針の決定	取り組みの目的は何か、どのツールを利用するか、だれが行うか、コストはいくら？等
③ルール作り	運用マニュアルの策定
④会員への周知	総会や回覧板等での周知
⑤取組の開始	（試験的）運用の開始
⑥フィードバック（改善）	アンケートなどで会員の声を収集（取り組みの改善へつなげる）

○取り組む上での注意点

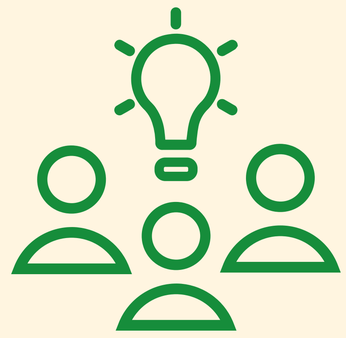
・情報セキュリティ

情報発信・共有を行う上で、プライバシー確保の観点から個人の特定につながるような情報、写真は不特定多数への公開を避けるなどの**基本ルールを事前に決めておきましょう。**また、機密情報の漏えいを防ぐために、**データにはパスワードを使ってロックをかけて保存する、アクセスできる人を限定する**等の対策を行う必要があります。

・デジタルディバイド対策（次ページ参照）

☆デジタル回覧板、オンライン集金の始め方については、P．１１「鹿児島市による支援」に記載の「地域活動におけるデジタルツール活用の手引き」についてもご参照ください。

【デジタル化に取り組むにあたって】



○デジタルディバイド※（情報格差）対策

※デジタルディバイド：インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる人と利用できない人との間に生じる格差

町内会において、デジタルツールを活用することが、役員の負担軽減や、住民間のコミュニケーションの増加などにつながっています。

一方、住民の中には、高齢者を中心に、デジタルツールの使用に苦手意識や抵抗を感じる方もいることを忘れてはいけません。

多様な世代を対象に活動している町内会にとって、デジタルディバイド対策は必要不可欠なものです。

本冊子でご紹介している事例にもありましたが、デジタル化に取り組む際に必要なデジタルディバイド対策を以下にまとめて記載しますので、ぜひ参考にしください。

- **会員のデジタルリテラシー向上**
  デジタルツールの実施説明会やスマホ講習会を開催して、
  会員のデジタル技術に関する知識向上を図りましょう。
- **現行手段との併用**
  現行の方法を廃止するのではなく、併用することで
  すべての会員が不利益を被らないように工夫しましょう。
- **スモールスタート**
  役員間や任意の班から試験的に運用し、
  そこで得た知見を全体の取り組みに活かしましょう。
- **サポート体制の整備**
  デジタルが不得意な会員を支援する「デジタルサポーター」や、
  相談窓口を設置することで会員の不安解消を図りましょう。

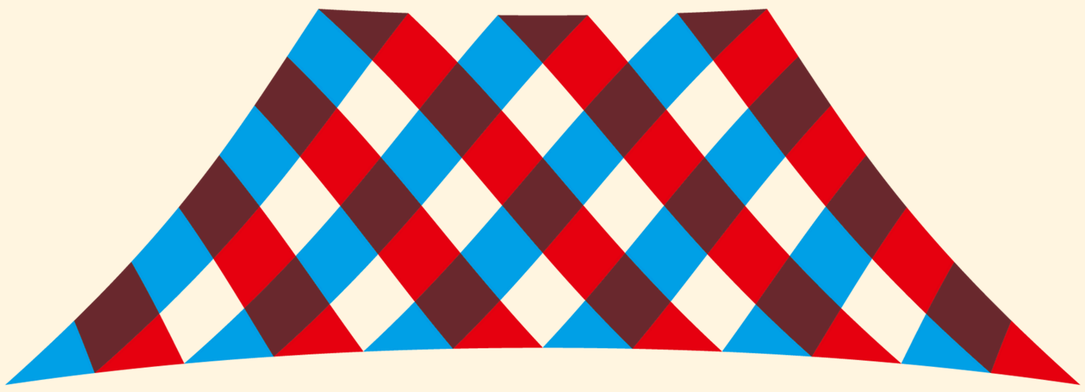
【鹿児島市による支援】

鹿児島市では、地域におけるデジタルツールの活用を促進するために様々な支援を行っています。

〇鹿児島市が実施する支援制度等一覧

≪ 所管課 ≫ 支援制度等	内容	詳細
≪ 地域づくり推進課 ≫ 町内会におけるデジタルツール活用支援講座	町内会の運営に活用できるデジタルツールについて学ぶことができる。希望団体には、後日、２回まで講師を派遣し、活用までの事前準備を支援する。	
≪ 地域づくり推進課 ≫ 町内会デジタル活用促進補助金	町内会における情報発信やオンライン集金等に必要な経費の一部を助成する。[上限] 10万円、[補助率] ３分の２ ※ 年に１回、最大５回まで	
≪ デジタル戦略推進課≫ スマートフォン活用講座（出前講座）	町内会等の市民グループを対象に、出張型のスマートフォン活用講座を実施します。 スマートフォンの基本的な操作方法や生活の利便性向上につながる本市の提供するアプリ、Webサービス等の講習。	
≪ 地域づくり推進課 ≫ 町内会等における デジタルツール活用応援事業者	デジタルツールの活用を促進するために、社会貢献活動の一環として、各種サービスや割引などを提供いただける応援事業者を募集しています。 登録された事業者の情報や協力内容については、市ホームページで随時公開してまいります。	
≪ 地域づくり推進課 ≫ 地域活動における デジタルツール活用の手引き	町内会活動におけるデジタルツールの活用を検討する際に、参考としていただくための手引きを作成しています。 電子回覧板や、オンライン集金に活用できるツールの比較や活用のポイント、導入事例などを紹介していますので、ぜひご活用ください。	

あなたとわくわく



マグマシティ
鹿児島市

町内会におけるデジタルツール活用事例集
（令和7年３月発行）

編集・発行
鹿児島市　地域づくり推進課
TEL：０９９－２１６－１２１４
Mail：chi-community@city.kagoshima.lg.jp